



平成27年3月26日

各 位

上場会社名 昭和電工株式会社
コード番号 4004 東証第1部
代表者 取締役社長 市川秀夫
問合せ先 財務・経理部 IR室長 加藤信裕
TEL (03) 5470 -3323

(訂正・数値データ訂正)「平成26年12月期第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」
の一部訂正について

当社は、平成26年10月30日に開示しました「平成26年12月期第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部を訂正しましたので、お知らせいたします。

記

1. 訂正内容と理由

平成27年3月26日付「平成26年度訂正四半期報告書の提出及び決算短信の訂正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 訂正箇所

訂正箇所が多数に及ぶため、訂正前および訂正後の全文をそれぞれ添付し、訂正の箇所には下線を付して表示しております。また、訂正後の数値データも開示しております。

3. 訂正の概要

(単位：百万円)

		訂正前	訂正後	影響額
平成26年12月期 第3四半期	売上高	647,560	646,321	△1,238
	営業利益	18,229	18,205	△24
	経常利益	17,057	17,033	△24
	四半期純利益	2,179	2,171	△8
	総資産	996,009	995,979	△30
	純資産	314,567	314,547	△19

以上

平成26年12月期 第3四半期決算要約

1.当第3四半期の業績

①業績概要

項目	(単位:億円)			〔ご参考〕 (単位:億円)			〔通期業績予想〕 (単位:億円)
	平成25年 第3四半期累計 (1月～9月)	平成26年 第3四半期累計 (1月～9月)	増減	平成25年 第3四半期 (7月～9月)	平成26年 第3四半期 (7月～9月)	増減	平成26年 通期予想 ^(※)
売上高	6,175	6,463	288	2,161	2,329	168	8,950
営業利益	158	182	24	91	77	△15	320
経常利益	124	170	47	70	98	29	260
四半期純利益	67	22	△46	46	56	10	70
金融収支	△21	0	22	△9	10	18	
総資産	9,858	9,960	102	9,665	9,960	295	
有利子負債残高	3,537	3,996	459	3,974	3,996	22	

※平成26年7月31日公表

②セグメント別 売上高・営業利益

部門	(単位:億円)			〔ご参考〕 (単位:億円)			〔通期業績予想〕 (単位:億円)	
	平成25年 第3四半期累計 (1月～9月)	平成26年 第3四半期累計 (1月～9月)	増減	平成25年 第3四半期 (7月～9月)	平成26年 第3四半期 (7月～9月)	増減	平成26年 通期予想 ^(※)	
売上高	石油化学	2,076	2,026	△50	722	829	107	2,860
	化学品	955	1,024	69	336	351	15	1,430
	エレクトロニクス	992	1,026	34	331	331	1	1,380
	無機	490	509	20	179	176	△4	680
	アルミニウム	672	709	37	235	251	15	1,040
	その他	1,273	1,487	214	450	496	46	2,020
	調整額	△283	△318	△36	△91	△104	△12	△460
計	6,175	6,463	288	2,161	2,329	168	8,950	
営業利益	石油化学	20	△6	△26	20	13	△7	25
	化学品	13	32	19	7	18	11	60
	エレクトロニクス	142	189	47	58	57	△1	260
	無機	△3	△7	△4	3	0	△3	0
	アルミニウム	48	25	△23	19	7	△12	40
	その他	△8	5	13	1	1	0	15
	調整額	△53	△55	△2	△17	△20	△3	△80
計	158	182	24	91	77	△14	320	

※平成26年7月31日公表

〔ご参考〕四半期別売上高・営業利益推移

部門	(単位:億円)			
	平成26年 第1四半期 (1月～3月)	平成26年 第2四半期 (4月～6月)	平成26年 第3四半期 (7月～9月)	
売上高	石油化学	621	577	829
	化学品	334	339	351
	エレクトロニクス	372	323	331
	無機	160	174	176
	アルミニウム	212	246	251
	その他	498	493	496
	調整額	△101	△114	△104
計	2,096	2,038	2,329	
営業利益	石油化学	△1	△19	13
	化学品	10	4	18
	エレクトロニクス	81	51	57
	無機	△4	△3	0
	アルミニウム	9	9	7
	その他	2	1	1
	調整額	△21	△14	△20
計	76	30	77	

2.配当

項目	平成25年 年間	平成26年 年間予想
1株当たり配当金	3.0円	3.0円(予定)

3.参考数値

項目	平成25年 第3四半期累計 (1月～9月)			平成26年 第3四半期累計 (1月～9月)			増減
	平成25年 第3四半期 (7月～9月)	平成26年 第3四半期 (7月～9月)	増減	平成25年 第3四半期 (7月～9月)	平成26年 第3四半期 (7月～9月)	増減	
為替レート(円/US\$)	96.7	103.0	6.2円安	99.0	103.9	5.0円安	
国産ナフサ価格(円/KL)	64,450	70,850	6,400	63,900	70,700	6,800	

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。なお、法令に定めのある場合を除き、当社はこれらの将来予測に基づく記述を更新する義務を負いません。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績に影響を与える要素には、経済情勢、ナフサ等原材料価格、製品の需要動向及び市況、為替レートなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。



平成26年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年10月30日

上場取引所 東

上場会社名 昭和電工株式会社

コード番号 4004 URL <http://www.sdk.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 市川 秀夫

問合せ先責任者 (役職名) 財務・経理部 IR室長

(氏名) 加藤 信裕

TEL 03-5470-3323

四半期報告書提出予定日 平成26年11月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満四捨五入)

1. 平成26年12月期第3四半期の連結業績(平成26年1月1日～平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第3四半期	646,321	4.7	18,205	14.9	17,033	37.9	2,171	△67.8
25年12月期第3四半期	617,536	12.9	15,848	△33.5	12,354	△37.4	6,750	△39.9

(注) 包括利益 26年12月期第3四半期 6,678百万円 (△73.6%) 25年12月期第3四半期 25,314百万円 (63.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第3四半期	1.46	—
25年12月期第3四半期	4.51	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第3四半期	995,979	29.5	314,547	30.6		
25年12月期	985,771		345,811			

(参考) 自己資本 26年12月期第3四半期 294,067百万円 25年12月期 301,211百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年12月期	—	0.00	—	3.00	3.00
26年12月期	—	0.00	—		
26年12月期(予想)				3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年12月期の連結業績予想(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	895,000	5.5	32,000	23.3	26,000	10.7	7,000	△22.8	4.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ー社 (社名) 、 除外 ー社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年12月期3Q	1,497,112,926 株	25年12月期	1,497,112,926 株
② 期末自己株式数	26年12月期3Q	68,822,612 株	25年12月期	539,728 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年12月期3Q	1,487,480,324 株	25年12月期3Q	1,496,594,029 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】7ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	7
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	7
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	8
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う 特定子会社の異動）	8
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	8
3. 四半期連結財務諸表	9
(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
(3) 継続企業の前提に関する注記	13
(4) セグメント情報等	13
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	14
(6) 重要な後発事象	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

1) 当期の経営成績

当第3四半期連結累計期間（平成26年1月～9月、以下「第3四半期」）のわが国経済は、年前半は消費税率引き上げに伴う駆け込み需要とその反動減がみられました。年後半は個人消費の反動減の影響は和らいでおりますが、夏場の天候不順の影響等を受け、景気回復のテンポはやや緩やかなものとなっております。

海外経済は、欧州では回復に力強さはみられないものの、米国など先進国では総じて回復しており、また中国は減速しつつも緩やかな拡大が続いておりますが、新興国では勢いを欠く状態がみられます。

石油化学業界においては、年前半は中国の強めの需要もあり、国内生産は高い稼働となりましたが、年後半は駆け込み需要の反動減の影響もあり、自動車生産等に一服感が出ております。電子部品・材料業界は、海外半導体の生産増を受け堅調に推移しました。

このような情勢下、当社グループは中期経営計画「ペガサス」の後半計画である「ペガサス フェーズⅡ」を本年より始動させました。「グローバル市場で特徴ある存在感を持つ化学企業」の確立に向け、引き続きハードディスク、黒鉛電極を両翼とする成長戦略を推進するとともに、新たにアルミ缶、高純度アルミ箔、半導体高純度ガス、機能性化学品を「成長」事業と位置づけ、伸長するアジア市場での展開加速等、さらなる事業強化を進めてまいります。

当第3四半期の連結営業成績につきましては、売上高は、石油化学セグメントはエチレン生産設備の大型定期修理に伴う減産により減収となりましたが、他の5セグメントは主に数量増により増収となり、6,463億21百万円（前年同期比4.7%増）となりました。営業利益は、石油化学、無機、アルミニウムの3セグメントは減益となったものの、エレクトロニクス、化学品、その他の3セグメントが増益となり、182億5百万円（同14.9%増）となりました。経常利益は受取配当金の増加等もあり、170億33百万円（同37.9%増）となりましたが、四半期純利益は投資有価証券評価損、減損損失の増加等により、21億71百万円（同67.8%減）となりました。

(単位：百万円)

	平成25年 第3四半期 (1-9月)	平成26年 第3四半期 (1-9月)	増減	平成25年 7-9月	平成26年 7-9月	増減
売上高	617,536	<u>646,321</u>	<u>28,786</u>	216,126	<u>232,938</u>	<u>16,812</u>
営業利益	15,848	<u>18,205</u>	<u>2,357</u>	9,126	<u>7,672</u>	<u>△1,454</u>
経常利益	12,354	<u>17,033</u>	<u>4,678</u>	6,967	<u>9,832</u>	<u>2,864</u>
四半期純利益	6,750	<u>2,171</u>	<u>△4,579</u>	4,592	<u>5,607</u>	<u>1,015</u>

2) セグメント別概況 (平成26年1月～9月)

【石油化学セグメント】

当セグメントでは、第3四半期のエチレン、プロピレンの生産は、4年に1度実施するエチレン生産設備の定期修理(3月初旬～4月末)の影響により前年同期に比べ減少しました。

オレフィン事業は、これによる販売量の減少で減収となりました。有機化学品事業は、酢酸ビニル等の販売量増加により増収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は2,026億1百万円(前年同期比2.4%減)となり、営業損益は5億95百万円の損失(同25億66百万円減益)となりました。

(単位:百万円)

	平成25年 第3四半期 (1-9月)	平成26年 第3四半期 (1-9月)	増減	平成25年 7-9月	平成26年 7-9月	増減
売上高	207,575	202,601	△4,975	72,156	82,874	10,719
営業利益	1,972	△595	△2,566	2,017	1,346	△671

【化学品セグメント】

当セグメントでは、第3四半期の液化アンモニアの生産は前年同期並みとなりました。

基礎化学品事業は、液化アンモニアの売上は減少しましたが、アクリロニトリルの市況上昇とクロロプレンゴムの海外向け数量増により、総じて増収となりました。産業ガス、機能性化学品の2事業は小幅に増収となりました。情報電子化学品事業は海外向け半導体高純度ガスの出荷増により増収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は1,024億18百万円(前年同期比7.2%増)となり、営業利益は31億82百万円(同150.3%増)となりました。

(単位:百万円)

	平成25年 第3四半期 (1-9月)	平成26年 第3四半期 (1-9月)	増減	平成25年 7-9月	平成26年 7-9月	増減
売上高	95,525	102,418	6,894	33,604	35,082	1,478
営業利益	1,271	3,182	1,911	713	1,796	1,083

【エレクトロニクスセグメント】

当セグメントでは、第3四半期のハードディスクの生産は、前年同期並みとなりました。

ハードディスク事業はPC向けなどの出荷が堅調に推移し増収となりました。レアアース磁石合金は販売量が増加したため小幅に増収となり、化合物半導体は数量増により増収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は1,026億30百万円(前年同期比3.4%増)となり、営業利益は188億81百万円(同33.3%増)となりました。

(単位：百万円)

	平成25年 第3四半期 (1-9月)	平成26年 第3四半期 (1-9月)	増減	平成25年 7-9月	平成26年 7-9月	増減
売上高	99,233	102,630	3,397	33,060	33,121	61
営業利益	14,169	18,881	4,713	5,813	5,679	△134

【無機セグメント】

当セグメントでは、第3四半期の黒鉛電極の生産は前年同期に比べ増加しました。

黒鉛電極事業は、アジア地区では鉄鋼業界の厳しい需給関係が続いたものの、米国、日本では鉄鋼需要が緩やかに回復し、販売量は増加し増収となりました。セラミックス事業は、研削材等の販売量が増加し増収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は509億25百万円（前年同期比4.0%増）となりましたが、営業損益はセラミックス事業における原価高等により7億29百万円の損失（同4億13百万円減益）となりました。

(単位：百万円)

	平成25年 第3四半期 (1-9月)	平成26年 第3四半期 (1-9月)	増減	平成25年 7-9月	平成26年 7-9月	増減
売上高	48,954	50,925	1,970	17,929	17,578	△351
営業利益	△315	△729	△413	327	32	△295

【アルミニウムセグメント】

当セグメントでは、第3四半期のアルミ電解コンデンサー用高純度箔の生産は、顧客業界の生産が主に家電、車載向けに増加したため前年同期に比べ増加しました。

アルミ圧延品事業はこれにより増収となりました。アルミ機能部材事業は、自動車向け部材等の販売量増により増収となりました。アルミ缶は数量減により減収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は708億65百万円（前年同期比5.5%増）となりましたが、営業損益はアルミ地金等原燃料コストの高騰により25億20百万円（同47.9%減）となりました。

(単位：百万円)

	平成25年 第3四半期 (1-9月)	平成26年 第3四半期 (1-9月)	増減	平成25年 7-9月	平成26年 7-9月	増減
売上高	67,195	70,865	3,671	23,531	25,056	1,526
営業利益	4,837	2,520	△2,317	1,906	727	△1,179

【その他セグメント】

当セグメントでは、第3四半期のリチウムイオン電池材料は前年同期並みとなり、昭光通商株式会社は主に海外関連事業が増収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は 1,487億27百万円（前年同期比 16.8%増）となり、営業利益は 4億53百万円（同 12億60百万円 増益）となりました。

（単位：百万円）

	平成25年 第3四半期 (1-9月)	平成26年 第3四半期 (1-9月)	増減	平成25年 7-9月	平成26年 7-9月	増減
売上高	127,309	<u>148,727</u>	<u>21,418</u>	44,984	<u>49,609</u>	<u>4,625</u>
営業利益	△808	<u>453</u>	<u>1,260</u>	92	<u>126</u>	<u>34</u>

3) 当第2四半期決算後に実施・決定した主な施策

【全社施策】

「パワー半導体用SiCエピウェハー6インチ品の生産能力増強」

当社は、本年9月、パワー半導体用炭化ケイ素 (SiC) エピタキシャルウェハー（以下、エピウェハー）の6インチ品の月産能力を400枚から1,100枚に増強しました。また、自動車用など大電流容量が求められるモジュール向けに、品質を向上させた新グレード製品を本年10月より出荷しております。

SiCエピウェハーが用いられるパワー半導体は、現在主流のシリコン (Si) 製に比べ耐高温・高電圧特性や大電流特性に優れ、電力損失も大幅に削減できることから、車載、サーバー電源、電鉄、および新エネルギーの分散型電源向けなどに需要増加が期待され、市場規模は平成32年に300億円に拡大すると予想されております。当社は市場の要求品質に答え、市場形成に貢献してまいります。

「自己株式の取得」

当社は、株主還元および経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を図るため、平成26年7月31日開催の取締役会において自己株式取得を決議しました。本年8月1日から市場買付を開始し、同9月22日までに総数68,261,000株（約100億円）の自己株式の取得が終了いたしました。

【石油化学セグメント】

「PT. ショウワ・エステルインド・インドネシアの解散」

当社は、当社の子会社であるPT. ショウワ・エステルインド・インドネシア（以下、SEI）における酢酸エチル生産を本年中に終了し、その後生産設備の解体・撤去を経て解散することを決定いたしました。

SEIは、当社が独自に開発したエチレン直接付加法により酢酸エチルを生産する初のプラントとして平成11年の操業以来、需要堅調な東南アジアに安定供給してまいりましたが、近年は原料価格の上昇や近隣国における供給能力の増大等により事業環境が厳しさを増しており、今後の事業継続は困難と判断したものです。

【化学品セグメント】**「APCI台湾高純度塩素事業を買収」**

当社は特殊材料ガス事業の強化を図るため、本年7月、米国・エアプロダクツアンドケミカルズ社（APCI）の子会社 三福氣體股份有限公司が台湾・高雄市に保有する製造設備を含む高純度塩素事業の買収を決定いたしました。

高純度塩素は、半導体・液晶製造プロセスでのエッチング用ガスとして需要が拡大しており、平成27年の市場規模は2,000トン程度になることが予想されています。

当社グループは、現在川崎事業所における年産1,000トンの設備に加え、台湾の製造設備を持つことで、今後さらなる市場の拡大が予想される東アジア地域において、安定した供給体制を構築してまいります。

【エレクトロニクスセグメント】**「世界最大記憶容量の3.5インチハードディスク量産開始」**

当社が生産・販売するハードディスクが、世界最大容量となる8テラバイトのハードディスクドライブに採用されました。

今回採用されたハードディスクは、3.5インチで1枚当たり1.1～1.3テラバイトの容量を持つ、垂直磁気記録方式で第7世代の製品です。当社は、平成17年より世界に先駆けて垂直磁気記録方式のハードディスクの生産を開始しております。

ハードディスクドライブは今後クラウド化の進展によるデータ生成量の増加に伴い、特にデータセンター向けの出荷の増加が見込まれます。また、ハードディスクドライブの記憶容量を左右する主要構成部品であるハードディスクは、年率3%前後の成長が期待されています。

当社は、今後も世界最大のメディア専門メーカーとして、大記憶容量のハードディスクの安定供給に努め、質・量の両面においてお客様の期待に応えてまいります。

【無機セグメント】**「高機能光触媒『ルミレッシュ[®]』が太陽工業の膜材に採用」**

当社の子会社、昭和電工セラミックス株式会社が開発した高機能光触媒「ルミレッシュ[®]」が、テント構造物のトップメーカーである太陽工業株式会社の屋内用膜材「ヒカリプロテクスタイル」に採用され、平成27年1月から販売される予定です。

ルミレッシュ[®]は、太陽光に多く含まれる紫外光で効果を発揮する従来の光触媒に比べ、屋内の蛍光灯など、弱いエネルギー光でも菌やウイルスを不活化させることが確認されています。ルミレッシュ[®]の高い抗ウイルス性能は、インフルエンザウイルスやノロウイルス等の感染リスクを低減する技術として期待が持たれています。

当社グループは光触媒のさらなる性能向上に努め、人々の健康で、安心・安全な生活に貢献してまいります。

【アルミニウムセグメント】

「高純度アルミ箔の中国拠点の能力増強を決定」

当社は、本年7月、アルミ電解コンデンサーの主要材料である高純度アルミ箔の中国での生産能力増強を決定いたしました。

アルミ電解コンデンサーは、家電製品からIT機器、電気自動車やハイブリッド車、新エネルギー分野まで幅広く使用されており、特に中国で需要伸長が見込まれています。

昭和電工アルミ(南通)有限公司の月産能力を現行の400トンから平成27年1月には600トンに増強することにより、高品質の高純度アルミ箔を安定的に供給し、アルミ電解コンデンサー市場の拡大にタイムリーに対応してまいります。

【その他セグメント】

「リチウムイオン電池向けラミネート包材設備増強を完了」

当社の子会社、昭和電工パッケージング株式会社は、リチウムイオン電池(以下、LIB)の包材であるアルミラミネートフィルム(以下、ラミフィルム)の彦根工場での設備増強を完了し、7月より量産を開始しました。今回の増強により、昭和電工パッケージングでのラミフィルム生産能力は平成22年比で3倍となりました。

LIB包材向けラミフィルムの市場は拡大を続けており、スマートフォンやタブレット向け小型LIBの需要増に加え、自動車の電装化に伴う大型LIBの需要の増加が見込まれます。

当社グループは、成長著しいLIB市場に対し、高品質のLIB用材料を安定的に供給することに努めてまいります。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末の総資産は、営業債権、固定資産の増加等により前期末比102億8百万円増加し9,959億79百万円となりました。負債合計は、劣後特約付ローンの実行等により有利子負債が増加し、前期末比414億71百万円増加の6,814億32百万円となりました。当第3四半期末の純資産は、四半期純利益の計上や為替換算調整勘定の増加はありましたが、前期配当金の支払いや自己株式の取得、当社100%出資の特別目的子会社が発行したユーロ円建交換権付永久優先出資証券の買入消却による少数株主持分の減少等により、前期末比312億63百万円減少の3,145億47百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

本年7月31日に修正し公表した連結業績予想に変更はありません。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通期予想	895,000	32,000	26,000	7,000

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	68,250	56,124
受取手形及び売掛金	156,090	<u>164,161</u>
商品及び製品	53,203	59,420
仕掛品	16,331	14,750
原材料及び貯蔵品	50,622	48,942
その他	30,358	34,682
貸倒引当金	△256	△286
流動資産合計	374,599	<u>377,791</u>
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	85,470	84,059
機械装置及び運搬具（純額）	111,627	119,150
土地	254,593	254,082
その他（純額）	42,396	48,716
有形固定資産合計	494,087	506,007
無形固定資産		
その他	10,960	14,248
無形固定資産合計	10,960	14,248
投資その他の資産		
投資有価証券	78,688	72,546
その他	27,969	<u>25,896</u>
貸倒引当金	△531	△509
投資その他の資産合計	106,125	<u>97,932</u>
固定資産合計	611,172	<u>618,187</u>
資産合計	985,771	<u>995,979</u>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	124,194	<u>116,386</u>
短期借入金	78,182	80,984
1年内返済予定の長期借入金	41,694	65,987
コマーシャル・ペーパー	18,000	5,000
引当金	6,208	6,456
その他	78,667	<u>84,793</u>
流動負債合計	346,945	<u>359,605</u>
固定負債		
社債	30,000	45,000
長期借入金	185,811	202,613
退職給付引当金	20,310	15,997
その他の引当金	43	408
その他	56,852	57,809
固定負債合計	293,016	321,827
負債合計	639,961	<u>681,432</u>
純資産の部		
株主資本		
資本金	140,564	140,564
資本剰余金	62,221	62,221
利益剰余金	58,414	<u>56,113</u>
自己株式	△149	<u>△10,152</u>
株主資本合計	261,050	<u>248,746</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,850	6,028
繰延ヘッジ損益	105	1,032
土地再評価差額金	27,923	27,918
為替換算調整勘定	6,284	<u>10,343</u>
その他の包括利益累計額合計	40,161	<u>45,321</u>
少数株主持分	44,599	<u>20,480</u>
純資産合計	345,811	<u>314,547</u>
負債純資産合計	985,771	<u>995,979</u>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
売上高	617,536	646,321
売上原価	540,267	563,633
売上総利益	77,268	82,688
販売費及び一般管理費	61,420	64,483
営業利益	15,848	18,205
営業外収益		
受取利息	117	174
受取配当金	863	3,153
持分法による投資利益	—	451
雑収入	3,048	3,735
営業外収益合計	4,028	7,513
営業外費用		
支払利息	3,128	3,314
持分法による投資損失	560	—
操業休止関連費用	1,098	2,447
雑支出	2,736	2,924
営業外費用合計	7,522	8,685
経常利益	12,354	17,033
特別利益		
投資有価証券売却益	1,046	723
契約解除補償金	756	—
特許権等譲渡益	—	345
その他	138	59
特別利益合計	1,939	1,127
特別損失		
固定資産除売却損	913	1,655
減損損失	608	2,829
関連事業損失	1,377	—
投資有価証券評価損	70	4,033
その他	716	2,782
特別損失合計	3,685	11,299
税金等調整前四半期純利益	10,608	6,860
法人税等	2,786	4,532
少数株主損益調整前四半期純利益	7,822	2,328
少数株主利益	1,073	157
四半期純利益	6,750	2,171

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	7,822	<u>2,328</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,996	180
繰延ヘッジ損益	676	871
為替換算調整勘定	11,800	<u>3,289</u>
持分法適用会社に対する持分相当額	19	10
その他の包括利益合計	<u>17,491</u>	<u>4,350</u>
四半期包括利益	<u>25,314</u>	<u>6,678</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	23,332	<u>6,175</u>
少数株主に係る四半期包括利益	1,982	<u>503</u>

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項なし。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

各報告セグメントに属する主要な製品・商品等の種類は、下表の通りである。

	主要製品・商品等
石油化学	オレフィン（エチレン、プロピレン）、 有機化学品（酢酸ビニルモノマー、酢酸エチル、アリルアルコール）
化学品	機能性化学品（合成樹脂エマルジョン、不飽和ポリエステル樹脂、工業用フェノール樹脂）、 産業ガス（液化炭酸ガス、ドライアイス、酸素、窒素、水素）、 基礎化学品（液化アンモニア、アクリロニトリル、アミノ酸、苛性ソーダ、塩素、合成ゴム）、 情報電子化学品（エレクトロニクス向け特殊ガス・機能薬品）
エレクトロニクス	ハードディスク、化合物半導体（LED）、レアアース磁石合金
無機	黒鉛電極、セラミックス（アルミナ、研削研磨材）、ファインセラミックス
アルミニウム	コンデンサー用高純度箔、レーザービームプリンター用シリンダー、押出品、鍛造品、 熱交換器、飲料用缶
その他	リチウムイオン電池材料、建材、卸売

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間（自平成25年1月1日至平成25年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント							調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	石油化学	化学品	エレクトロニクス	無機	アルミニウム	その他	計		
売上高									
外部顧客に対する 売上高	202,266	88,173	98,200	42,715	62,974	123,208	617,536	—	617,536
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	5,309	7,352	1,033	6,239	4,221	4,101	28,255	△28,255	—
計	207,575	95,525	99,233	48,954	67,195	127,309	645,791	△28,255	617,536
セグメント損益 (営業損益)	1,972	1,271	14,169	△315	4,837	△808	21,126	△5,277	15,848

(注)セグメント損益の調整額△5,277百万円には、セグメント間取引消去104百万円、各報告セグメントに配分していない
 全社費用△5,381百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社共通研究開発費である。

当第3四半期連結累計期間（自平成26年1月1日至平成26年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント							調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	石油化学	化学品	エレクトロニクス	無機	アルミニウム	その他	計		
売上高									
外部顧客に対する 売上高	197,607	94,192	101,283	44,445	64,747	144,048	646,321	—	646,321
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	4,994	8,226	1,347	6,480	6,119	4,678	31,845	△31,845	—
計	202,601	102,418	102,630	50,925	70,865	148,727	678,166	△31,845	646,321
セグメント損益 (営業損益)	△595	3,182	18,881	△729	2,520	453	23,713	△5,508	18,205

(注)セグメント損益の調整額△5,508百万円には、セグメント間取引消去79百万円、各報告セグメントに配分していない
 全社費用△5,586百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社共通研究開発費である。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な減損損失を認識していない。また、のれん等の金額に重要な影響を及ぼす事象は生じていない。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

(自己株式の取得)

当社は、株主還元及び経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を図るため、平成26年7月31日開催の取締役会決議に基づき自己株式の取得を行っている。

この取得等により自己株式は、当第3四半期連結累計期間において100億3百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において101億52百万円となっている。

(6) 重要な後発事象

該当事項なし。

平成26年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年10月30日

上場取引所 東

上場会社名 昭和電工株式会社

コード番号 4004 URL <http://www.sdk.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 市川 秀夫

問合せ先責任者 (役職名) 財務・経理部 IR室長

(氏名) 加藤 信裕

TEL 03-5470-3323

四半期報告書提出予定日 平成26年11月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満四捨五入)

1. 平成26年12月期第3四半期の連結業績(平成26年1月1日～平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第3四半期	647,560	4.9	18,229	15.0	17,057	38.1	2,179	△67.7
25年12月期第3四半期	617,536	12.9	15,848	△33.5	12,354	△37.4	6,750	△39.9

(注) 包括利益 26年12月期第3四半期 6,697百万円 (△73.5%) 25年12月期第3四半期 25,314百万円 (63.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第3四半期	1.46	—
25年12月期第3四半期	4.51	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年12月期第3四半期	996,009	314,567	29.5
25年12月期	985,771	345,811	30.6

(参考) 自己資本 26年12月期第3四半期 294,076百万円 25年12月期 301,211百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年12月期	—	0.00	—	3.00	3.00
26年12月期	—	0.00	—	—	—
26年12月期(予想)	—	—	—	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年12月期の連結業績予想(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	895,000	5.5	32,000	23.3	26,000	10.7	7,000	△22.8	4.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年12月期3Q	1,497,112,926 株	25年12月期	1,497,112,926 株
② 期末自己株式数	26年12月期3Q	68,822,612 株	25年12月期	539,728 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年12月期3Q	1,487,480,324 株	25年12月期3Q	1,496,594,029 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】7ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	7
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	7
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	8
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う 特定子会社の異動）	8
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	8
3. 四半期連結財務諸表	9
(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
(3) 継続企業の前提に関する注記	13
(4) セグメント情報等	13
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	14
(6) 重要な後発事象	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

1) 当期の経営成績

当第3四半期連結累計期間（平成26年1月～9月、以下「第3四半期」）のわが国経済は、年前半は消費税率引き上げに伴う駆け込み需要とその反動減がみられました。年後半は個人消費の反動減の影響は和らいでおりますが、夏場の天候不順の影響等を受け、景気回復のテンポはやや緩やかなものとなっております。

海外経済は、欧州では回復に力強さはみられないものの、米国など先進国では総じて回復しており、また中国は減速しつつも緩やかな拡大が続いておりますが、新興国では勢いを欠く状態がみられます。

石油化学業界においては、年前半は中国の強めの需要もあり、国内生産は高い稼働となりましたが、年後半は駆け込み需要の反動減の影響もあり、自動車生産等に一服感が出ております。電子部品・材料業界は、海外半導体の生産増を受け堅調に推移しました。

このような情勢下、当社グループは中期経営計画「ペガサス」の後半計画である「ペガサス フェーズⅡ」を本年より始動させました。「グローバル市場で特徴ある存在感を持つ化学企業」の確立に向け、引き続きハードディスク、黒鉛電極を両翼とする成長戦略を推進するとともに、新たにアルミ缶、高純度アルミ箔、半導体高純度ガス、機能性化学品を「成長」事業と位置づけ、伸長するアジア市場での展開加速等、さらなる事業強化を進めてまいります。

当第3四半期の連結営業成績につきましては、売上高は、石油化学セグメントはエチレン生産設備の大型定期修理に伴う減産により減収となりましたが、他の5セグメントは主に数量増により増収となり、6,475億60百万円（前年同期比4.9%増）となりました。営業利益は、石油化学、無機、アルミニウムの3セグメントは減益となったものの、エレクトロニクス、化学品、その他の3セグメントが増益となり、182億29百万円（同15.0%増）となりました。経常利益は受取配当金の増加等もあり、170億57百万円（同38.1%増）となりましたが、四半期純利益は投資有価証券評価損、減損損失の増加等により、21億79百万円（同67.7%減）となりました。

（単位：百万円）

	平成25年 第3四半期 (1-9月)	平成26年 第3四半期 (1-9月)	増減	平成25年 7-9月	平成26年 7-9月	増減
売上高	617,536	<u>647,560</u>	<u>30,024</u>	216,126	<u>233,954</u>	<u>17,828</u>
営業利益	15,848	<u>18,229</u>	<u>2,381</u>	9,126	<u>7,687</u>	<u>△1,439</u>
経常利益	12,354	<u>17,057</u>	<u>4,703</u>	6,967	<u>9,847</u>	<u>2,879</u>
四半期純利益	6,750	<u>2,179</u>	<u>△4,571</u>	4,592	<u>5,612</u>	<u>1,020</u>

2) セグメント別概況 (平成26年1月～9月)

【石油化学セグメント】

当セグメントでは、第3四半期のエチレン、プロピレンの生産は、4年に1度実施するエチレン生産設備の定期修理(3月初旬～4月末)の影響により前年同期に比べ減少しました。

オレフィン事業は、これによる販売量の減少で減収となりました。有機化学品事業は、酢酸ビニル等の販売量増加により増収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は2,026億1百万円(前年同期比2.4%減)となり、営業損益は5億95百万円の損失(同25億66百万円減益)となりました。

(単位:百万円)

	平成25年 第3四半期 (1-9月)	平成26年 第3四半期 (1-9月)	増減	平成25年 7-9月	平成26年 7-9月	増減
売上高	207,575	202,601	△4,975	72,156	82,874	10,719
営業利益	1,972	△595	△2,566	2,017	1,346	△671

【化学品セグメント】

当セグメントでは、第3四半期の液化アンモニアの生産は前年同期並みとなりました。

基礎化学品事業は、液化アンモニアの売上は減少しましたが、アクリロニトリルの市況上昇とクロロプレンゴムの海外向け数量増により、総じて増収となりました。産業ガス、機能性化学品の2事業は小幅に増収となりました。情報電子化学品事業は海外向け半導体高純度ガスの出荷増により増収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は1,024億18百万円(前年同期比7.2%増)となり、営業利益は31億82百万円(同150.3%増)となりました。

(単位:百万円)

	平成25年 第3四半期 (1-9月)	平成26年 第3四半期 (1-9月)	増減	平成25年 7-9月	平成26年 7-9月	増減
売上高	95,525	102,418	6,894	33,604	35,082	1,478
営業利益	1,271	3,182	1,911	713	1,796	1,083

【エレクトロニクスセグメント】

当セグメントでは、第3四半期のハードディスクの生産は、前年同期並みとなりました。

ハードディスク事業はPC向けなどの出荷が堅調に推移し増収となりました。レアアース磁石合金は販売量が増加したため小幅に増収となり、化合物半導体は数量増により増収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は1,026億30百万円(前年同期比3.4%増)となり、営業利益は188億81百万円(同33.3%増)となりました。

(単位：百万円)

	平成25年 第3四半期 (1-9月)	平成26年 第3四半期 (1-9月)	増減	平成25年 7-9月	平成26年 7-9月	増減
売上高	99,233	102,630	3,397	33,060	33,121	61
営業利益	14,169	18,881	4,713	5,813	5,679	△134

【無機セグメント】

当セグメントでは、第3四半期の黒鉛電極の生産は前年同期に比べ増加しました。

黒鉛電極事業は、アジア地区では鉄鋼業界の厳しい需給関係が続いたものの、米国、日本では鉄鋼需要が緩やかに回復し、販売量は増加し増収となりました。セラミックス事業は、研削材等の販売量が増加し増収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は509億25百万円（前年同期比4.0%増）となりましたが、営業損益はセラミックス事業における原価高等により7億29百万円の損失（同4億13百万円減益）となりました。

(単位：百万円)

	平成25年 第3四半期 (1-9月)	平成26年 第3四半期 (1-9月)	増減	平成25年 7-9月	平成26年 7-9月	増減
売上高	48,954	50,925	1,970	17,929	17,578	△351
営業利益	△315	△729	△413	327	32	△295

【アルミニウムセグメント】

当セグメントでは、第3四半期のアルミ電解コンデンサー用高純度箔の生産は、顧客業界の生産が主に家電、車載向けに増加したため前年同期に比べ増加しました。

アルミ圧延品事業はこれにより増収となりました。アルミ機能部材事業は、自動車向け部材等の販売量増により増収となりました。アルミ缶は数量減により減収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は708億65百万円（前年同期比5.5%増）となりましたが、営業損益はアルミ地金等原燃料コストの高騰により25億20百万円（同47.9%減）となりました。

(単位：百万円)

	平成25年 第3四半期 (1-9月)	平成26年 第3四半期 (1-9月)	増減	平成25年 7-9月	平成26年 7-9月	増減
売上高	67,195	70,865	3,671	23,531	25,056	1,526
営業利益	4,837	2,520	△2,317	1,906	727	△1,179

【その他セグメント】

当セグメントでは、第3四半期のリチウムイオン電池材料は前年同期並みとなり、昭光通商株式会社は主に海外関連事業が増収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は 1,499億65百万円（前年同期比 17.8%増）となり、営業利益は 4億77百万円（同 12億84百万円 増益）となりました。

（単位：百万円）

	平成25年 第3四半期 (1-9月)	平成26年 第3四半期 (1-9月)	増減	平成25年 7-9月	平成26年 7-9月	増減
売上高	127,309	<u>149,965</u>	<u>22,656</u>	44,984	<u>50,625</u>	<u>5,641</u>
営業利益	△808	<u>477</u>	<u>1,284</u>	92	<u>141</u>	<u>49</u>

3) 当第2四半期決算後に実施・決定した主な施策

【全社施策】

「パワー半導体用SiCエピウェハー6インチ品の生産能力増強」

当社は、本年9月、パワー半導体用炭化ケイ素 (SiC) エピタキシャルウェハー（以下、エピウェハー）の6インチ品の月産能力を400枚から1,100枚に増強しました。また、自動車用など大電流容量が求められるモジュール向けに、品質を向上させた新グレード製品を本年10月より出荷しております。

SiCエピウェハーが用いられるパワー半導体は、現在主流のシリコン (Si) 製に比べ耐高温・高電圧特性や大電流特性に優れ、電力損失も大幅に削減できることから、車載、サーバー電源、電鉄、および新エネルギーの分散型電源向けなどに需要増加が期待され、市場規模は平成32年に300億円に拡大すると予想されております。当社は市場の要求品質に答え、市場形成に貢献してまいります。

「自己株式の取得」

当社は、株主還元および経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を図るため、平成26年7月31日開催の取締役会において自己株式取得を決議しました。本年8月1日から市場買付を開始し、同9月22日までに総数68,261,000株（約100億円）の自己株式の取得が終了いたしました。

【石油化学セグメント】

「PT. ショウワ・エステルインド・インドネシアの解散」

当社は、当社の子会社であるPT. ショウワ・エステルインド・インドネシア（以下、SEI）における酢酸エチル生産を本年中に終了し、その後生産設備の解体・撤去を経て解散することを決定いたしました。

SEIは、当社が独自に開発したエチレン直接付加法により酢酸エチルを生産する初のプラントとして平成11年の操業以来、需要堅調な東南アジアに安定供給してまいりましたが、近年は原料価格の上昇や近隣国における供給能力の増大等により事業環境が厳しさを増しており、今後の事業継続は困難と判断したものです。

【化学品セグメント】

「APCI台湾高純度塩素事業を買収」

当社は特殊材料ガス事業の強化を図るため、本年7月、米国・エアプロダクツアンドケミカルズ社（APCI）の子会社 三福氣體股份有限公司が台湾・高雄市に保有する製造設備を含む高純度塩素事業の買収を決定いたしました。

高純度塩素は、半導体・液晶製造プロセスでのエッチング用ガスとして需要が拡大しており、平成27年の市場規模は2,000トン程度になることが予想されています。

当社グループは、現在川崎事業所における年産1,000トンの設備に加え、台湾の製造設備を持つことで、今後さらなる市場の拡大が予想される東アジア地域において、安定した供給体制を構築してまいります。

【エレクトロニクスセグメント】

「世界最大記憶容量の3.5インチハードディスク量産開始」

当社が生産・販売するハードディスクが、世界最大容量となる8テラバイトのハードディスクドライブに採用されました。

今回採用されたハードディスクは、3.5インチで1枚当たり1.1～1.3テラバイトの容量を持つ、垂直磁気記録方式で第7世代の製品です。当社は、平成17年より世界に先駆けて垂直磁気記録方式のハードディスクの生産を開始しております。

ハードディスクドライブは今後クラウド化の進展によるデータ生成量の増加に伴い、特にデータセンター向けの出荷の増加が見込まれます。また、ハードディスクドライブの記憶容量を左右する主要構成部品であるハードディスクは、年率3%前後の成長が期待されています。

当社は、今後も世界最大のメディア専門メーカーとして、大記憶容量のハードディスクの安定供給に努め、質・量の両面においてお客様の期待に応えてまいります。

【無機セグメント】

「高機能光触媒『ルミレッシュ[®]』が太陽工業の膜材に採用」

当社の子会社、昭和電工セラミックス株式会社が開発した高機能光触媒「ルミレッシュ[®]」が、テント構造物のトップメーカーである太陽工業株式会社の屋内用膜材「ヒカリプロテクトスタイル」に採用され、平成27年1月から販売される予定です。

ルミレッシュ[®]は、太陽光に多く含まれる紫外光で効果を発揮する従来の光触媒に比べ、屋内の蛍光灯など、弱いエネルギー光でも菌やウイルスを不活化させることが確認されています。ルミレッシュ[®]の高い抗ウイルス性能は、インフルエンザウイルスやノロウイルス等の感染リスクを低減する技術として期待が持たれています。

当社グループは光触媒のさらなる性能向上に努め、人々の健康で、安心・安全な生活に貢献してまいります。

【アルミニウムセグメント】

「高純度アルミ箔の中国拠点の能力増強を決定」

当社は、本年7月、アルミ電解コンデンサーの主要材料である高純度アルミ箔の中国での生産能力増強を決定いたしました。

アルミ電解コンデンサーは、家電製品からIT機器、電気自動車やハイブリッド車、新エネルギー分野まで幅広く使用されており、特に中国で需要伸長が見込まれています。

昭和電工アルミ(南通)有限公司の月産能力を現行の400トンから平成27年1月には600トンに増強することにより、高品質の高純度アルミ箔を安定的に供給し、アルミ電解コンデンサー市場の拡大にタイムリーに対応してまいります。

【その他セグメント】

「リチウムイオン電池向けラミネート包材設備増強を完了」

当社の子会社、昭和電工パッケージング株式会社は、リチウムイオン電池(以下、LIB)の包材であるアルミラミネートフィルム(以下、ラミフィルム)の彦根工場での設備増強を完了し、7月より量産を開始しました。今回の増強により、昭和電工パッケージングでのラミフィルム生産能力は平成22年比で3倍となりました。

LIB包材向けラミフィルムの市場は拡大を続けており、スマートフォンやタブレット向け小型LIBの需要増に加え、自動車の電装化に伴う大型LIBの需要の増加が見込まれます。

当社グループは、成長著しいLIB市場に対し、高品質のLIB用材料を安定的に供給することに努めてまいります。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末の総資産は、営業債権、固定資産の増加等により前期末比102億38百万円増加し9,960億9百万円となりました。負債合計は、劣後特約付ローンの実行等により有利子負債が増加し、前期末比414億82百万円増加の6,814億43百万円となりました。当第3四半期末の純資産は、四半期純利益の計上や為替換算調整勘定の増加はありましたが、前期配当金の支払いや自己株式の取得、当社100%出資の特別目的子会社が発行したユーロ円建交換権付永久優先出資証券の買入消却による少数株主持分の減少等により、前期末比312億44百万円減少の3,145億67百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

本年7月31日に修正し公表した連結業績予想に変更はありません。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通期予想	895,000	32,000	26,000	7,000

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	68,250	56,124
受取手形及び売掛金	156,090	<u>165,709</u>
商品及び製品	53,203	59,420
仕掛品	16,331	14,750
原材料及び貯蔵品	50,622	48,942
その他	30,358	34,682
貸倒引当金	△256	△286
流動資産合計	374,599	<u>379,340</u>
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	85,470	84,059
機械装置及び運搬具（純額）	111,627	119,150
土地	254,593	254,082
その他（純額）	42,396	48,716
有形固定資産合計	494,087	506,007
無形固定資産		
その他	10,960	14,248
無形固定資産合計	10,960	14,248
投資その他の資産		
投資有価証券	78,688	72,546
その他	27,969	<u>24,378</u>
貸倒引当金	△531	△509
投資その他の資産合計	106,125	<u>96,414</u>
固定資産合計	611,172	<u>616,669</u>
資産合計	985,771	<u>996,009</u>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	124,194	<u>117,600</u>
短期借入金	78,182	80,984
1年内返済予定の長期借入金	41,694	65,987
コマーシャル・ペーパー	18,000	5,000
引当金	6,208	6,456
その他	78,667	<u>83,589</u>
流動負債合計	346,945	<u>359,616</u>
固定負債		
社債	30,000	45,000
長期借入金	185,811	202,613
退職給付引当金	20,310	15,997
その他の引当金	43	408
その他	56,852	57,809
固定負債合計	293,016	321,827
負債合計	639,961	<u>681,443</u>
純資産の部		
株主資本		
資本金	140,564	140,564
資本剰余金	62,221	62,221
利益剰余金	58,414	<u>56,121</u>
自己株式	△149	<u>△10,152</u>
株主資本合計	261,050	<u>248,754</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,850	6,028
繰延ヘッジ損益	105	1,032
土地再評価差額金	27,923	27,918
為替換算調整勘定	6,284	<u>10,344</u>
その他の包括利益累計額合計	40,161	<u>45,322</u>
少数株主持分	44,599	<u>20,491</u>
純資産合計	345,811	<u>314,567</u>
負債純資産合計	985,771	<u>996,009</u>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
売上高	617,536	647,560
売上原価	540,267	564,847
売上総利益	77,268	82,712
販売費及び一般管理費	61,420	64,483
営業利益	15,848	18,229
営業外収益		
受取利息	117	174
受取配当金	863	3,153
持分法による投資利益	—	451
雑収入	3,048	3,735
営業外収益合計	4,028	7,513
営業外費用		
支払利息	3,128	3,314
持分法による投資損失	560	—
操業休止関連費用	1,098	2,447
雑支出	2,736	2,924
営業外費用合計	7,522	8,685
経常利益	12,354	17,057
特別利益		
投資有価証券売却益	1,046	723
契約解除補償金	756	—
特許権等譲渡益	—	345
その他	138	59
特別利益合計	1,939	1,127
特別損失		
固定資産除売却損	913	1,655
減損損失	608	2,829
関連事業損失	1,377	—
投資有価証券評価損	70	4,033
その他	716	2,782
特別損失合計	3,685	11,299
税金等調整前四半期純利益	10,608	6,884
法人税等	2,786	4,538
少数株主損益調整前四半期純利益	7,822	2,346
少数株主利益	1,073	167
四半期純利益	6,750	2,179

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	7,822	2,346
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,996	180
繰延ヘッジ損益	676	871
為替換算調整勘定	11,800	3,290
持分法適用会社に対する持分相当額	19	10
その他の包括利益合計	17,491	4,351
四半期包括利益	25,314	6,697
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	23,332	6,184
少数株主に係る四半期包括利益	1,982	514

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項なし。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

各報告セグメントに属する主要な製品・商品等の種類は、下表の通りである。

	主要製品・商品等
石油化学	オレフィン（エチレン、プロピレン）、 有機化学品（酢酸ビニルモノマー、酢酸エチル、アリルアルコール）
化学品	機能性化学品（合成樹脂エマルジョン、不飽和ポリエステル樹脂、工業用フェノール樹脂）、 産業ガス（液化炭酸ガス、ドライアイス、酸素、窒素、水素）、 基礎化学品（液化アンモニア、アクリロニトリル、アミノ酸、苛性ソーダ、塩素、合成ゴム）、 情報電子化学品（エレクトロニクス向け特殊ガス・機能薬品）
エレクトロニクス	ハードディスク、化合物半導体（LED）、レアアース磁石合金
無機	黒鉛電極、セラミックス（アルミナ、研削研磨材）、ファインセラミックス
アルミニウム	コンデンサー用高純度箔、レーザービームプリンター用シリンダー、押出品、鍛造品、 熱交換器、飲料用缶
その他	リチウムイオン電池材料、建材、卸売

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間（自平成25年1月1日至平成25年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント							調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	石油化学	化学品	エレクトロニクス	無機	アルミニウム	その他	計		
売上高									
外部顧客に対する 売上高	202,266	88,173	98,200	42,715	62,974	123,208	617,536	—	617,536
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	5,309	7,352	1,033	6,239	4,221	4,101	28,255	△28,255	—
計	207,575	95,525	99,233	48,954	67,195	127,309	645,791	△28,255	617,536
セグメント損益 (営業損益)	1,972	1,271	14,169	△315	4,837	△808	21,126	△5,277	15,848

(注)セグメント損益の調整額△5,277百万円には、セグメント間取引消去104百万円、各報告セグメントに配分していない
 全社費用△5,381百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社共通研究開発費である。

当第3四半期連結累計期間（自平成26年1月1日至平成26年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント							調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	石油化学	化学品	エレクトロニクス	無機	アルミニウム	その他	計		
売上高									
外部顧客に対する 売上高	197,607	94,192	101,283	44,445	64,747	145,286	647,560	—	647,560
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	4,994	8,226	1,347	6,480	6,119	4,678	31,845	△31,845	—
計	202,601	102,418	102,630	50,925	70,865	149,965	679,404	△31,845	647,560
セグメント損益 (営業損益)	△595	3,182	18,881	△729	2,520	477	23,737	△5,508	18,229

(注)セグメント損益の調整額△5,508百万円には、セグメント間取引消去79百万円、各報告セグメントに配分していない
 全社費用△5,586百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社共通研究開発費である。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な減損損失を認識していない。また、のれん等の金額に重要な影響を及ぼす事象は生じていない。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

(自己株式の取得)

当社は、株主還元及び経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を図るため、平成26年7月31日開催の取締役会決議に基づき自己株式の取得を行っている。

この取得等により自己株式は、当第3四半期連結累計期間において100億3百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において101億52百万円となっている。

(6) 重要な後発事象

該当事項なし。